

コンサートレポート

春風にのせて 3.31市原SEこすもす第4回演奏会

第4回演奏会は3月31日(木) 市原市市民会館にて「春風にのせて」開催されました。開演前、有志の方々のロビーコンサートがあり、コンサートの雰囲気は盛り上がってきました。第1部は「ラデツキー行進曲」のメロディーで軽快に始まり、2曲目は「カプリ島」で硬さがとれ、余裕がでてきたようです。そしてタンゴが続き、ラストはバレエ組曲「花のワルツ」を見事な演奏で締めくくりました。第2部は歌手としても有名な木川 翔指揮の、声も衣装も美しい女性合唱団でした。そして第3部は「舟唄」や「川の流れるように」、「キャラバン」や「ひまわり」など数曲のあと、いよいよシベリ

ウスの名曲「フィンランディア」です。前半速くて難しいところもあるのですが、ダイナミックになんなくこなし、後半の美しい旋律は合唱団が歌い、憎いほどの演出でした。市原の皆さまは輝いていました。

レポート：習志野SE 月岡喜久雄



笹森先生追悼演奏会 5.14市川SE第3回演奏会

五月晴れの5月14日、市川シニアアンサンブル第3回定期演奏会が市川市文化会館小ホールで開催された。開場前に来られた観客の列に鑑み、予定時間より早めの開場となった。開演前には座席数400名ほぼ満席に達し、大盛況であった。オープニング曲モーツァルト作曲「交響曲第25番第1楽章」の演奏のあと司会者から昨春秋に逝去された笹森先生について言及された。プログラムを見ると第1部がクラシックステージ、第2部がポップスステージとなっているが、笹森先生編曲の曲のみが特集されており、大野先生指揮による笹森先生を偲ぶ追悼演奏会であることがわかった。第2部では女性は華やかな真赤なブラウス、男性はポケットチーフにカラフルなスカーフを身につけおしゃれなスタイルでの演奏であった。第2部は「ウェストサイド物語メドレー」から始まり、映画音楽、ラテン、タンゴなど10曲が演奏された。間にみんなの歌える曲もあり、来場者は結構くつろぎ楽しんでた様子であった。特筆すべき事項として、プログラムには指揮のタクトをデザイン化し市川市の花のバラを添える形で市川シニアアンサンブルの「ロゴマーク」が誕生したことが記載されており、団員の強い絆を感じた。



レポート：船橋SE 高萩良郎

卯の花の匂うコンサート 5.22四街道SE第6回定期演奏会

2016年5月22日(日)に四街道公民館ホールで四街道SE第6回定期演奏会（卯の花の匂うコンサート）が行われました。会場へは電車で参りましたが、初めて下車した四街道駅から会場までの道は旧東海道を思わせるような立派な松並木があり、一見の価値があります。まず開演前にロビーで管楽奏者によるロビーコンサートがあり、「闘牛士のマンボ」などで楽しませてもらいました。プログラムは2部構成で、前半は初夏にちなんだ唱歌とクラシック、後半はタンゴや歌謡曲などのポップスが演奏されました。まず、指揮者なしで夏は来ぬが演奏されました。ついで佐々木代表の司会で市長、教育長がお見えになっていることが紹介され、市長の挨拶がありました。つづいて成島先生の指揮で、プログラムが進み、前半の最後の曲「ドナウ川のさざなみ」は大変乗りがよく大いに盛り上がりました。休憩20分間はコーヒータイムで、暖かいコーヒーや冷たい飲み物の接待がありました。200人弱の定員あればこそこの暖かいもてなしでした。2部のポップスではタンゴ3曲のうち一曲は歌姫の独唱付きで大いに盛り上がり、「川の流れるように」で皆さんの感激もひとしおのようでした。最後は「青い山脈」と「夏は来ぬ」の合唱の後、アンコール曲「昴」でお開きとなりました。今秋は、1000人収容の四街道文化ホールで定期演奏会が行われるとの予定が披露されました。 レポート：千葉SE 横溝 敬

それいゆコンサート 6.6千葉SE第4回定期演奏会

梅雨入りしたばかりの6月6日、千葉シニアアンサンブル第4回定期演奏会が京葉銀行文化ホールで開催された。平日にもかかわらず、私が入場した開演前40分ごろにはすでに7割の観客が入場されており、開演時にはほぼ満席の状態となった。プログラムは3部構成で、第1部では「ラデツキー行進曲」を始めクラシック6曲が演奏された。その中でもベートーヴェン作曲、故笹森先生編曲の「交響曲第5番運命第1楽章」は前回演奏された「エグモント序曲」と同様に団員の相当な練習の成果が見えた演奏であった。第2部は映画音楽やラテン曲など6曲が演奏された。「シャレード」ではクラリネットとアルトサックスそれぞれソロ演奏の部分があり、うっとりとして聴き入ってしまった。また、「シバの女王」では団員の中から二人の女性によるヴォーカルも披露された。第3部は日本の曲6曲が演奏された。後半の3曲は観客と一緒に歌う曲が演奏され、会場一杯に歌声が響いていた。「花は咲く」、「ふるさと」では、観客の中に団員の友人がアメリカから聴きに來られており、日本語を話す女子高校生が友情出演の形でステージに上がり、上手な日本語で歌っていた。全ステージを通して観客を魅了するに十分な演奏会であった。 レポート：船橋SE 高萩良郎

